

進路通信

5月25日

学部・学問情報

◆農業経済学…農業を通じて消費者の生活向上に貢献する

【学問の内容】

農業経済学は、農業が抱えている経済的な側面について、さまざまな角度から探っていく学問です。生産者の所得の向上や経済的な安定のほか、農業を通じて一般消費者の生活の向上にも貢献することをめざしています。

農業経済学では、**経済学**、**経営学**、**政治学**、**法律学**、**社会学**といった社会科学系の基礎理論を学び、農業と関連づけて理解していきます。そして農業を取り巻く社会現象を自分の目で確認して問題点を見出し、解決策を考えていくのです。今、世界では**農産物の貿易自由化**や、発展途上国に見られる深刻な**食糧不足**が問題になっており、農業経済学にも国際的な観点が必要な時代と言えます。農産物の輸入問題は、国内の農産物が外国産の価格の安さに対抗できず、輸入を制限しようとするところから起こっています。日本の農業は生産規模がとても小さいため割高な状況です。農地を広げ、生産規模を大きくして**機械化**すれば生産性は上がりますが、国土面積の少ない日本では農地拡大は困難です。**日本の農業をいかにして生産性の高い農業にしていくかが、農業経済学の重要な課題**になります。

【卒業後の進路】

就職状況は比較的良好で、農業の知識と技術を要する**一般企業**を中心として、**食品メーカー**、**商社**などに就職する人が多い。社会科学的思考と自然科学的思考の両方を学び、知識を身につけているため、そのほかにも**流通・金融業**や**建設業**、**観光業**にいたるまで、幅広い領域に進出している。**農協**などの職員や**公務員**になる人も多い。

◆農芸化学…農業発展のために、技術と薬品を開発する

【学問の内容】

農芸化学は、**農産物の生産から加工、保存、そして廃棄、再生というサイクルを、生物化学や有機化学などから研究**していく、実験科学的な要素が強い学問分野です。具体的な研究分野としては、**栽培のための土壌**に関する分野、**肥料や農薬**に関する分野、**微生物の応用**に関する分野、**食品を栄養学的に解明**していく分野、**食品の加工・保存**に関する分野に分かれます。農芸化学では非常に複雑な実験が伴いますが、それだけに研究成果への期待も大きいものがあります。例えば、食物と微生物を利用して、石油に代わる**新エネルギーの開発**が進められています。また**環境保全**の問題では、生ゴミを発酵させて資源にする研究や、**生分解性プラスチック**の研究が注目されています。このプラスチックは微生物の働きによって簡単に分解されることから、洗剤や包装材、食品添加物などへの応用が期待されています。将来の人口増大に伴う食糧不足が重大な問題となっている今こそ、農芸化学には、人間生活をより豊かにするための高度な技術が求められているのです。

【卒業後の進路】

食品、医薬品や化粧品などの**メーカー**、化学工業などの**一般企業**で、**研究者**や**技術者**となる人が多い。これらは**バイオテクノロジーの発展**により、今後も有望であると言える。また、大学院へ進学する人のほか、**国家公務員**や国公立の**試験研究機関**の職員、**食品関係の公共団体**の職員となり、研究職に就く人もいる。